

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370101606		
法人名	医療法人 ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷なかよし苑		
所在地	岡山市北区下足守2182番地		
自己評価作成日	令和5年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JizyosvoCd=3370101606-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和5年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人の価値観や生活スタイルに合わせた個別ケアの実践していくため、継続的な見直しを行っている。コロナの感染拡大の中、出来るかぎりの行事を定期的に関催し個々の思いに寄り添い普通の暮らしが継続出来るように支援をしています。また、日々の様子をまとめた報告書を毎月作成し、ご家族の方に苑での様子を報告しています。健康面は週1回の医師の往診や看護師と連携することによりサポートも充実しています。また、職員間でも定期的に勉強会を行い、入所者様へのより良い支援を提案し介護サービスの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体施設・協力病院と連携をスムーズかつ密に図りながら、利用者の健康管理を行っている。看護師も週に2回の勤務があり、利用者の状態について確認してもらえる。便秘気味の利用者には、できるだけ薬に頼らず看護師による適便や水分摂取により、排泄の負担が少なく行えるように努めている。また、いつでも先生や看護師に連絡が可能である。先日もいつも居室でテレビを観ている利用者が、横になったままの状態だった為、看護師に連絡すると直ぐに駆けつけてくれた。心筋梗塞の可能性を疑い病院へ搬送し、素早い処置を行うことができた。また、コロナ感染予防として、当直の職員は必ず母体病院で抗原検査を実施し、陰性を確認してから業務についている。利用者が通院した場合も、母体協力病院で抗原検査をするなど、徹底したコロナ感染予防対策を行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とグループホームの理念を事務所内に提示する事で職員全員への周知を図り理念を念頭に日々の業務に取り組んでいます。	理念は事務所に掲示し、全員の意識統一を図っている。理念に「感じるのはぬくもり、支えるのはこころ」を掲げ、職員も親を安心して預けられる、利用者が安心して過ごせる施設を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大防止のため、運営推進会議など地域の方々を招いての参加は出来ないが、交流が安全に行えるようになった際は、地域との交流を深めていきたいと思っています。	コロナ禍になる前は、ボランティアが訪れ利用者と一緒に歌を歌っていたが、現在は中止している。職員は、地域の溝掃除やクリーン作戦に参加し、地域交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染拡大防止のため、地域の方を招いた活動は自粛しているが、地域の方より相談や機会があれば、その都度、対応したいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月ごとに開催しているが法人の指示によりコロナ感染拡大防止のため外部との方々の参加は中止しているが、資料を送付し、1週間後をめどに電話でご意見等を伺っています。	運営推進会議は、委員である町内会長、地域包括支援センター、婦人会、民生委員にレジュメを送付し、1週間後に全員に電話で意見を尋ねている。出た意見等を議事録にまとめ、職員にも周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の中、法人の指示により外部との行き来が出来なくなっているが、運営推進会議のレジュメを地域包括・民生委員・町内会長等に送付し事業所の実情を常に報告している。	運営推進会議のレジュメを送付し、意見を電話で尋ねる際、事業所の実情も伝えている。空床状況も案内し、地域包括支援センターの紹介で入居が決まった利用者もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を定め定期的に委員会を開催し、利用者様に対して尊厳のあるケアを行い身体拘束を行わないケアや、日中は玄関の施錠をすることが無いよう取り組んでいます。	3カ月毎に、職員の意見を下に身体拘束についての勉強会を実施している。インターネットから身体拘束に関する情報をまとめて冊子にし、いつでも閲覧できる状態にしている。スピーチロックも気をつけ、直ぐに利用者の希望に対応できない時は、「ゆっくりしてね」と言葉かけにも気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待に関する知識や理解を深めています。日々のケアで気づいた点や虐待が見過ごされていないかを話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があるとみられる利用者様の御家族に対し、情報の提供や申請の為の支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に時間を取り説明し同意を得ています。また、質問や疑問などがあれば、その都度、説明を行っていきたく考えています。改定があれば、文章で説明を行い納得の上、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に利用者の生活状況報告書を毎月送付したり、電話やオンライン面会時に御家族から寄せられた意見や要望に耳を傾けるように心がけています。	家族には、意見等があれば対応するので、遠慮なく言って欲しいと伝えている。家族から運動をさせて欲しいと要望があり、皆で体操をする際は職員が傍らに付き添い、無理強いにしない範囲で声を掛けたり手を添えたりしながら体操をしてもらっている。	定期的な家族アンケートなど潜在的なニーズを汲みとる取り組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスの場や、日々の業務の中でも各職員の意見や提案を聞き、反映させるように努めています。問題があれば、その都度話し合いを行っています。	管理者と職員との人間関係は良好で、互いに何でも言いやすいと職員ヒヤリングでも教えてもらった。食事中むせる状態が増えた時は、食事形態を変更するなど、職員からの提案を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見、要望を聞き、管理者から施設全体責任者へ伝えていきます。職員のストレスや疲労軽減のため、休憩を取り職員の労働意欲向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じて職員が研修に取り組める計画をしています。法人内外の研修においては、コロナ感染拡大の影響もあり、見極めながら、出来る限り参加し、一人一人の持つ能力向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ入会しています。今年は、コロナ感染予防のため、外部との活動を中止している中、法人内での研修等においては、感染防止を徹底した上で、通達があれば参加し交流の機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の開始する段階で事前面接を行い、要望や意向等を伺い、安心してサービスが提供できるよう全職員に説明しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で、御家族が困っている事、不安な事、要望等を聞きながら関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何が必要なか対応を検討し、御本人や御家族の思いや要望を伺い、現在の状況を見極めながら他のサービス利用も含めた対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人のペースに合わせ、無理のない程度の仕事(洗濯たたみ、テーブル拭き等)をお願いしたり、利用者同士が和やかに過ごせる環境を作り、共に支え合う関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を報告書として御家族に送ったり、また電話等で報告し共に本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで、本人が歩んできた生活を尊重しながら、支援しています。現在は、外出や面会が出来ないため、電話や手紙等で連絡がとれるように支援しています。	コロナ禍となり、面会はオンライン面会を実施している。積極的に面会に参加してもらえるよう、毎月の便りにも面会の案内をしている。年賀状の返事の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が安心して関われる環境を職員が作り、問題が発生した時は必要に応じて職員が仲介し、利用者間でのコミュニケーションがスムーズに行えるよう常に職員間で必要な介助を検討し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた場合でも、ご家族の了解の下、身体状況や精神状況または趣味や生活についても情報提供し新しい環境に早く慣れるよう支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ、ご本人の思いや意向を、普段の会話や表情・日々の様子から把握出来るよう努めています。また、ご本人から確認できない場合はご家族からも情報を得て、ご本人の希望に添える生活が出来るよう支援しています。	管理者は、日頃から利用者の訴えたいことを汲み取る姿勢で接して欲しいと伝えている。職員は、表情やしぐさから思いを引き出し、要望や意向を踏まえている。食事、入浴、運動など利用者が嫌がる場合は、無理強いせず、気持ちに寄り添いながら支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活状況を御家族から伺った上で、これまでの生活が、出来るだけスムーズに継続出来るよう支援しています。入居後も御家族に必要なであれば伺う機会を持っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症状や病状の変化等、心身状況の変化を記録、申し送りを行い、職員間で共有し、その方の強みを活かせる支援の統一を常に検討しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い小さな変化にも職員間で報告・連絡・相談を行いカンファレンスの場において、その時の現状に応じた介護計画を作成している。また、個別に担当を決めモニタリングを行いケアに活かしている。	介護計画の短期目標は、3カ月毎に見直しをしている。日々のモニタリングを参考にし、計画の見直しをしている。家族の要望も事前に確認し、管理者のアドバイスも踏まえ要望に沿った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア内容、計画に基づいた取り組みや結果を記録し、職員間で情報を共有し、その人にあつたケアの実践に活かしています。また、申し送り事項に記入し職員間で周知徹底を図り、次回の計画見直しの検討課題に反映できるように取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決められた業務の流れに限らず、1人1人に合ったサービスの提供を心がけ、法人と連携しながら、御本人や御家族の多様なニーズに応じることが出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に属し、回覧板等で情報を共有していますが、感染症対策のため、地域の方やボランティアの受け入れは行っていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設や協力病院、かかりつけ医との連携を図り安心して適切な医療が受けられるように支援していく体制を整えています。入院時も御家族や病院関係者と連絡を取り、状態の把握に努めています。	入居時に、協力医療機関の医療面の支援を伝え、変更してもらっている。看護師も週2回の勤務があり、摘便等の医療行為をしてくれる。また、利用者の状態変化があれば直ぐに駆けつけてくれ、医療面の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態の変化を把握し、必要があれば医師や看護師に相談しています。また、看護師の視点から意見も聞き、適切なケアが出来るよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時は安心して治療に専念できるように、ご家族・病院関係者と常に情報交換し早期の退院できるように、常に関係作りに取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり終末期においては御家族に対し医師や職員と話し合いを行い事業所としての対応や方針について納得いく説明をし共有を図り連携して支援していくようにしています。	入居時に、終末期の対応についての説明をしている。継続した医療行為が必要でなく、家族や利用者が希望すれば、看取りを実施している。医療行為の必要性が生じた場合は、医師から家族に医療の必要性を説明し、他施設への移行も検討してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内に緊急時対応マニュアルをいつでも閲覧出来るように掲示しています。また、適宜、急変時対応の勉強会を開催し、職員の周知を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、年2回の消防訓練や避難訓練を行い円滑な誘導が出来るように訓練を行っています。また、運営推進会議で地域の方に内容の報告を行い協力を得られるようお願いしていますが、今年は、コロナ感染拡大防止のため、報告のみとしています。	避難訓練は、一人体制の夜勤を想定した訓練を主に実施している。運営推進委員には、利用者の誘導を依頼している。訓練実施後は、担当者に反省点を尋ね、他の職員、町内にも伝えている。難聴の利用者には、筆談で避難を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入苑者様一人ひとりの人格、プライバシーを尊重し、日常の排泄等のケアにおいても、さりげない声かけを行い、プライバシーを損なわない対応をしています。	利用者と接する時は、職員のペースではなく利用者の目線とペースに合わせ、安心して生活してもらえるよう優しく話しかけている。重ね着をする利用者には、無理やりではなく自ら脱いでもらえるような声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入苑者様が今何をしたいのかを聞き、可能な限り御本人の思いや希望を引き出し、自己決定出来るよう支援しています。また、日々の生活の中での声かけ時に利用者様が選択して頂く様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様1人1人の思いに合わせた日々の暮らしが送れるよう努めています。また、御本人の気持ちのがのらない場合は無理強いすることなく御本人の気持ちを優先させ支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気をつけ、毎日が清潔、快適に過ごされるよう支援しています。また、定期的に指定の理髪店が来苑しコロナ感染防止対策を徹底した上で、散髪を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ感染防止のため、外食は中止しています。食事は入苑者様の状態に応じた食事形態に配慮し、雰囲気や環境を整え、楽しく食事が出来るよう支援しています。また、食事前後の台拭き等を負担にならない程度で職員と共に行っています。	法人管理栄養士が、利用者の健康面を考え作成した献立で提供している。パン食を週3回取り入れ、利用者が楽しめるよう色々な菓子パンを提供。食事形態も、利用者の状態に応じたものにし、季節のイベントではおやつを変更するなどの配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立のもと食事を提供し毎日の食事量や水分量を把握し1日の必要な栄養や水分の確保に努めています。また、入苑者様の状態に合わせた食事形態を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、口腔内の清潔が保てるよう支援している。口腔ケアの声掛けに動かせない方に対しては時間をおき再び声掛けを行っています。また、歯科医の月1回の往診もあり随時、相談や必要であれば往診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入苑者様一人ひとりのチェック表を作成し排泄パターンの把握に努め、声掛け、誘導、見守り、介助を行い、失敗が出来るだけ軽減できるように支援しています。	下肢筋力低下予防に努め、利用者各々に合った排泄用具を使用している。パットの使用を嫌がる利用者には、こまめに声掛けをして誘導している。夜間にもトイレ誘導を行い、不快な思いをしないように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行い個々の状態に合わせて医師に相談し必要ならば投薬を行い便秘の解消に努めている。また、毎日の運動や水分補給を促し便秘の改善に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日にはバイタルチェックを行い特変のない方は決められた時間(午前・午後)と分けてゆったりと入浴できる環境を整えています。また、時間や温度・湯量等を聞きながら個々のペースに合わせて入浴を楽しんでいただけるよう支援しています。	入浴支援は、無理強いせず納得した上で対応している。脱衣場と浴室は、事前に温め温度差が無いように気をつけている。入浴中は、掛け湯をしながらしっかりと温もってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調の変化や希望に気を配り、その方に合った休息を取り入れ、周りの環境に配慮し、安心して休んで頂けるよう支援しています。また、夜間の良眠を得るために体操や筋トレ、お手伝い等を取り入れ、活気がある生活を過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用リストをファイルに綴じ、個人個人の薬の内容、用法を理解し、医師の指示の下支援しています。また、飲み忘れのないよう徹底し体調の変化を見逃さないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入苑者様一人ひとりが活躍出来ることを提供し、楽しく生活できるよう支援しています。また、その方の持っている力を楽しく発揮できるよう、お手伝いを通じ、その方のペースでして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症対策のため、外出支援は控えていますが、通院などは御家族などの協力を得て行っています。また、通院した後は、感染対策として当施設外来で、抗原検査を行った上で帰苑して頂いています。	気候が良い時は、「散歩しませんか」と声を掛けるが、ほとんどの利用者から「寒いので」と断られる。花見は、ドライブを実施し、花見弁当を食べた。	庭等で、外気浴をするなど、外気に触れる機会が増える事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染防止のため、買い物は控えています。どうしても必要な物については、買い物の代行や、ご家族の協力も得ながら支援しています。また、毎月、ご家族には金銭の利用状況を伝えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば電話をかける支援も行い必要に応じて電話を出来るよう支援をしています。また、お正月には年賀状を書き、友人や、ご家族とのやり取りが出来るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には今までの生活の場の延長となるような雰囲気作りに努めています。また、職員がいつも見守る中で安心して過ごせる空間作りをしています。	換気をこまめに行い、温度計を確認しながら、利用者が寒くないよう温度調整を実施している。コロナ禍となり、机を増やし同じ方向を向いて食事をしてもらっている。異食の利用者の入居が決まり、現在は壁画等を取り外し、安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席には感染防止のため、一定の距離を保ちながら、利用者様の要望も考慮しつつ、利用者様が心地よく過ごせるよう配席しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や家族の写真などを家族の協力の下に設置し好みのものを居室に飾るなど、入苑者様が不安なく安心して過ごせる空間が作れるよう配慮しています。	入居時は、自宅で使用していた家具等を持ち込んでもらっている。家族から贈られた花や写真などを飾っている。テレビを置き、居室で楽しんでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った出来ることを考え、無理せず行って頂けるよう支援し、共用のスペースには時計等を見やすい所に配置し、自立した生活が送れるよう支援しています。また、同じような部屋の作りになっている為、居室の扉には名前を掲示しスムーズに行き来出来るよう工夫しています。		